

平成25年 9月 3日



長野県知事 阿部 守一 様

長野県「山の日」懇話会

座長

鈴木啓助

長野県の「山の日」（仮称）の制定に関する意見書

長野県の「山の日」（仮称）の制定について、様々な分野の有識者による闊達な議論により得られた意見・提案を、次のとおり意見書として報告します。

知事におかれましては、この意見書を参考にしていただき、全ての県民が共感しながら参加できる「山の日」の制定について検討していただくことを希望します。

[はじめに一長野県の「山の日」の制定に関する基本的な考え方]

～何のために「山の日」をつくるのか～

長野県は、県土の約8割を森林が占める全国有数の森林県であり、この森林を水源とする豊富な水は、本県はもとより下流域の都市部へもその恩恵をもたらしています。また、全国に23座ある3,000m峰のうち15座を有する日本一の山岳と固有の生き物たちの宝庫である高原には、県内外から毎年70万人を超える人達が訪れるなど、山が与えてくれる様々な「恵み」は私たちの生活になくてはならない貴重な財産です。

一方で、「山」をめぐる^{かん}は、森林整備の遅れによる水源涵養機能等の低下、野生鳥獣による農林業及び高山植物への被害拡大、登山者の増加等による山岳遭難事故の増加など、様々な課題が顕在化しており、県政モニター調査の中でも同様の認識であるという結果が出ています。

また、子ども達が「山」や「自然」と触れあう機会の減少も懸念され、私たち自身も、山や自然が「あたりまえのもの」として、あまりにも身近にあるため、意識が希薄になっているのではないのでしょうか。

今こそ、改めて長野県の「山」の魅力や価値を認識し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくために、「山」を守り育てながら、有効に活用していくことを、県民全体で考えていくときであると考えます。

こうした「山」をめぐる現状及び課題を踏まえ、この懇話会では、県が検討を進めている長野県の「山の日」の制定に関し、全員が現状等の情報を共有し、制定に賛同した上で、以下の項目について意見・提案を行いました。

- 1 長野県の「山の日」(仮称)の制定の趣旨
- 2 長野県の「山の日」(仮称)の期日
- 3 長野県の「山の日」(仮称)の名称
- 4 長野県の「山の日」(仮称)の制定を契機とした取組

1 長野県の「山の日」(仮称)の制定の趣旨について

「山」に感謝し、「山の恵み」を将来にわたり持続的に享受していくため、「山」を守り育てながら活かしていく機運の醸成の機会とすること

先に触れたように、本県の「山」は、私たちに様々な形で「恵み」を与えてくれ、この「山の恵み」を、次代を担う子ども達に着実に引き継いでいくことが重要です。

そのためには、私たちは改めて、「山」を深く知ることによって「山」の魅力や価値を認識し、「山」が与えてくれる様々な「山の恵み」の大切さを心にとどめ、これを守り後世に伝えていくためにはどうしたらよいかを心に銘じる必要がある、という趣旨を踏まえて「山の日」を制定すべきとの基本的な考え方で検討をすべきであるとの意見で一致をしました。

2 期日について

7月下旬から8月上旬の期間に、長野県の「山の日」を設定

長野県としてふさわしい「山の日」をいつにすべきかについては、本県の山々が、四季折々にその趣を異にしながら訪れる人を魅了していることなどから、季節毎に設定してはどうかという意見があるなど、実に多岐にわたる提案がありました。こうした意見等を大別すると、長野県にふさわしい「山の日」の期日の設定にあたっては、

- ・ 次代を担う子供達が山に触れ、親しみを持つため、様々な方法で行事に参加することが可能であること(夏休み、気候の安定期(梅雨明け十日)等)
- ・ 身近な里山から3,000メートル級の山々までを対象とすること
- ・ 山岳地帯では10月から6月は冬山であり、安全面等を考慮すると夏山の時期がふさわしいこと

といった視点を考慮すべきであるとの意見が大勢を占めました。

その中で、国民の祝日である、7月第3月曜日の「海の日」がふさわしいとする意見が多く提案され、その理由としては、

- ・ 我が国は四方を海に囲まれていると同時に、国際的にも特徴のある山岳・森林を有しているとともに、海と山とは極めて深いつながりがあることから、一体的に考えていくきっかけになること
- ・ 既に祝日(休日)であり、様々な取組に参加しやすいこと

といった点が挙げられた一方、

- ・ 「海の日」が中旬となる場合、梅雨が明けていないことがあること
- ・ 長野県の場合、子供たちが夏休みに入っていないこと
- ・ 隣県(山梨・岐阜県の「山の日」：8月8日)との連携による機運の醸成も考慮すべき

などの意見も出されました。

3 名称について

- ・ 第1候補：「信州(しんしゅう)山の日」
- ・ 第2候補：「山の日」

名称については、県民等への分かりやすさ、シンプルさといったことが重要であるとの指摘がなされました。そうした中で、県内外の人たちにとって長野県のイメージとして「長野」、「信濃」ではなく「信州」という表現が広く浸透しているのではないかということから、「信州(しんしゅう)山の日」を推薦する意見が多数を占め、この他、「『山と言えば長野県』だ」という強い誇りを持って全国に主張していく意味から単に『山の日』とすべきといった意見も出されました。

4 「山の日」を契機とした取組について

- ・県による「山の日」の意義を広く周知するための核となる行事開催
 - ・一市町村一事業といった、県内各地において地域が自発的に活動し、県下全域での機運の醸成を図っていく取組
- の2点に重点を置き、別添に掲げる様々な取組を参考に、具体的な施策の検討を行うこと

1で述べたように、山の日を「山の恵みを心にとどめる日とする」といった基本的な考え方にに基づき、様々な取組が検討されるべきと考えます。その際には、

- ・大人から子供までの幅広い年代層や県内外から訪れる方が誰でも参加できる様々な事業を検討すること
- ・県はもとより市町村、各種民間団体、企業など官民が一体となった取組とすべきこと

といった視点を念頭に、登山や自然観察等の「山の恵みに親しむ」取組み、講演会やシンポジウム等による自然環境や生態系について考える「山の恵みに学ぶ」取組み、森林整備や環境保全活動等の「山の恵みを守る」取組みなどの、それぞれの切り口ごとに具体的な施策を検討していくことが必要と考えます。

[むすびにー長野県の「山」の未来に向けて]

長野県には、実に多様な山々があります。そこには清流が流れ、緑あふれる森林があり、美しい地形や植生の創り出す高山の景観が常に私たちの心を癒してくれます。また、清らかでおいしい水や、炭素固定・酸素放出、塵・埃の除去を通じて新鮮な空気も供給してくれます。さらには、季節を通じて様々な食材を提供してくれ、登山やスキーといったスポーツの場としての健康増進効果に留まらず、連なる山々の頂から望む眼下の雲海、あるいは手の届かんばかりの満天の星空を眺めるとき、私たちは神の存在をも体の中に感じ取ることができます。

その全域が「山である」といっても過言ではない長野県に暮らす私たちは、もっと「山」の存在に思いを馳せ、この大きな「恵み」に対して声を大きくして誇っていくべきではないでしょうか。そして広く、長野県の「山」を愛するあらゆる人達とともに信州の「山の恵み」に感謝し、それを守り続けていく営みを息長く続けていくという思いを、「信州山の日」に託し、みんなで共有していくことを望みます。

長野県「山の日」検討懇話会委員（五十音順） 計20名

赤沼健至	井上のぞみ	牛越徹	垣内雄治
神谷圭子	木谷功七郎	神津長生	島立健二
杉山紘子	鈴木啓助(座長)	田中勝巳	塚田英雄
浜このみ	細川忠國	松沢貞一	水本正俊
宮本義彦	山本佳子	米川正利	渡辺隆一

【山の恵みに親しむ】

- 登山、トレッキング、ハイキングの実施等
 - ・体力や年齢等に応じた様々なメニュー（登山コースの設定）の提供
 - ・地元の人々の利用促進への取組
長野県で生活している人より県外から訪れる観光客等が長野県の魅力・価値を知っており、まず県民が長野県の魅力・価値を再確認する。
 - ・登山の安全を確保し、快適性を向上させるため、登山道の整備を進めるとともに、遭難防止のための活動を強化する。
- 子ども達の「山」や「自然」と触れあう機会の創出等
 - ・学校登山の推進
長野県特有の取組である学校登山をさらに充実したものとしていくため、子供をはじめ、親、教員たちが山に興味を持てるような取組を検討(山岳ガイドの活用、子ども達のレベルに応じた手法の検討等)
 - ・「山」の魅力や価値、大切さなどに関する教育の実施
- 人材の育成と活用
 - ・長野県の山は安全で楽しいというイメージアップのため、「信州登山案内人」等の一層の活用、拡充
- 山菜、ジビエ、薬草など、四季折々の「山の恵み」を味わう取組

【山の恵みに学ぶ】

- 自然調査活動 アルピニスト等による講演会・シンポジウムの開催
- 地域材で造られた住宅見学会
- 「信州山の日学校」の開校
 - ・「山」に関わる様々な分野の有識者による総合的な研修・講習会等の開催

【山の恵みを守る】

- 森林整備(間伐・下草刈)・環境保全活動の推進及び参加促進
 - ・都市部の人たちや企業の参加を促す取組
 - ・林業の現場のイメージアップ
 - ・里山等を活用した地域経済の活性化
 - ・県下一斉の環境美化活動
 - ・活動等への下流域の協力促進
- 「山」に関わる人材の評価
 - ・様々な形で山に携わる人々の表彰
 - ・緑の少年団の活動や環境保全等に関するボランティア活動の評価
- 野生鳥獣による被害への対応
 - ・都市部等への被害状況の情報発信・認識の共有

【その他】

- 「山の日」の意義等の周知方法
 - ・みんなが口ずさめる「山の日之歌」の制作
 - ・「山の日」を記念した「ピーク」に立つ一斉行動